

祝町小(八幡東区)で公開授業

20年度 必修化予定 プログラミング教育

2020年度に全国の小学校で必修化予定の「プログラミング教育」に関する公開授業が、八幡東区の祝町小(澤野孝雄校長、101人)であった。今



走る方向などをプログラミングした2輪車を走らせる子供たち

年度発足した「ロボットクラブ」の4、6年生12人が、九州工業大(戸畑区)の学生や大学院生のサポートを受けながら、それぞれが走る方向や距離をプログラム

した2輪車を使ったレースに挑戦した。プログラミング教育では、コンピュータの制御技術を学びつつ、論理的な思考を身につけることが期待されている。祝町小は今年度、必修化に先駆けロボットクラブや総合的な学習の時間で導入した。九工大は中尾基・工学研究院教授を中心にプログラミングを教材とする学習方法を学外に提供しており、情報教育を推進する総務省の補助事業に選ばれたのを機に祝町小に連携を打診した。

レースへの挑戦はロボットクラブの活動の一環で、9月中旬から準備してきた。子供たちは先生役の学生から、モーター付きの2輪車の走行距離や方向転換の簡単なプログラミングを学んだ。最終回となった今日25日の公開授業では、子供たちがそれぞれプログラミングした2輪車を、通過する順番を記したコース上で走らせ、ゴールになるべく近い場所に止めるルールで競った。

6年生の武田采佳さん(12)は「大学生のおかげで結構うまく走らせることができた。もっと勉強したい」と笑顔で話した。中尾教授は「小学生に教えることで、学生も他人に分かりやすく伝える力が養える」と語った。

【奥田伸一】